

立春・・・冬から春へ



ゆめっこだより 2月

2013/2/1 桜小学校

図書室の窓辺にはあたたかな日がさし、子どもたちのいこいの場所になっています。

まだまだ寒さはきびしいですが、こよみのうえでは2月4日「立春」から春のはじまり。光の強さが季節の移り変わりを感じさせてくれます。

この時期を「光の春」とよぶのだそうです。おひさまに感謝する気持ちが自然にわいてきますね。

うめいちりん 梅一輪一輪ほどの暖かさ 服部嵐雪
夢っこクイズ6年生No.7好きな一句を書く問いに多くの生徒がこの句を選んでいました。春を待ちわびる気持ちがよく感じられるのでしょうか。

また、「立春」の前日を「節分」といいます。なぜ節分に豆をまくの？なぜ恵方巻きをたべるの？「やいかがし」ってなあに？など、いろいろななぞもんを図書室の本でぜひしらべてみてくださいね。

386：きせつの図鑑

日本の年中行事

子ども歳時記12か月

031：みぢかななぞもん図鑑2月



文責：濱田

今月の読書マラソン認定者

4年	さん	5年	さん
----	----	----	----

今月の図書館博士



やがてうまれる春がいて
川のながれは まだつめたくて
ひたしたゆびが きれそにいたい
だけど冬とは どこかがちがう
波紋ができて ひろがって
きらり きらめく 光のなかに
そうよ きらめく 光のなかに
やがてうまれる 春がいて
あかるいひとみを かがやかす
風にふかれて さむそにゆれる
かわらの草は 冬枯れのまま
だけど冬とは ちよっぴりちがう
すんなりのびた ねこやなぎの
ぼつちりふくらむ 花芽のなかに
そうよ ふくらむ 花芽のなかに
やがてうまれる 春がいて
白いうぶげを ふるわせる



本のしょうかい

E：「ルリユールおじさん」 いせ ひでこ 作
木の好きな少女ソフィー。大事な植物図鑑がこわれてしまった。新しい本ではなく、「この本をなおしたいの」。
ルリユールとは、製本職人のこと。名前をなのらないルリユールおじさんの手仕事。「本には大事な知識や人生や歴史がいっぱいつまっている。それらをわすれないように、未来にむかって伝えていくのがルリユールの仕事なんだ」。さて、ソフィーの植物図鑑は、どんなふうによりみがえったでしょう。

015：「図書館ラクダがやってくる」

マグリート・ルアーズ 著

想像してみてください。さばく地帯で、北極圏で、ジャングルで、高山で、本を待っている子どもたちを。ラクダに乗ってやってくる本を。「図書館は、空気や水と同じくらい大切なものなのです」とアゼルバイジャンの図書館員は話す。

おはなしたまご

さんの

おはなし会

2月26日（火）ぎょうかん

今年度さいごです。

楽しみにしていて下さい！



2月28日（木）までで今年度の貸し出しは終わります。借りた本は3月4日（月）に返すようにしてください。3月は本の修理や整理、読書の記録のまとめ、来年度の準備をします。貸し出しはしませんが、図書室の中ではいつでも本を読むことはできます。おすすめの本もそろっているの、読書マラソンを仕上げるチャンスです。ゆめっ子クイズもクリアして認定書を手になしてください。さて、あなたは1年間で何冊の本に出会えたでしょうか。卒業目の6年生、心に残った本はありましたか？